



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月7日

上場会社名 名糖産業株式会社
 コード番号 2207 URL <http://www.meito-sangyo.co.jp>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小島 寛志

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長兼経理部長 (氏名) 山崎 潔

TEL 052 521 7111

四半期報告書提出予定日 2020年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	17,101	3.2	638		168	78.0	686	15.1
2019年3月期第3四半期	17,660	0.5	282	60.4	765	40.5	596	34.4

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 136百万円 (%) 2019年3月期第3四半期 386百万円 (90.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	40.61	
2019年3月期第3四半期	35.29	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	70,532	43,487	61.7
2019年3月期	72,107	43,962	61.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 43,487百万円 2019年3月期 43,962百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期				20.00	20.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	24,100	1.8	420		300	56.7	690	23.2	40.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	17,265,000 株	2019年3月期	17,265,000 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	370,233 株	2019年3月期	369,830 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	16,894,933 株	2019年3月期3Q	16,895,597 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中の貿易摩擦や中東情勢など地政学的リスクに起因して世界経済が減速し、製造業の景況感が冷え込むこととなりました。外需の低迷に加え、消費税の増税が実施されて個人の消費意欲も停滞して、企業業績への影響が懸念されるようになりました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましては、生活防衛意識や消費増税による消費の冷え込みが見られるなかで、残暑や暖冬など天候の影響も重なって、厳しい事業環境が続きました。

こうした情勢のもと、当社グループは、一昨年9月に稼働させた愛知県瀬戸市の新チョコレート工場への第2期移転工事が終了して生産能力を増強させるなかで、商品の安全性確保と品質の向上に引き続き注力するとともに、健康を追求した高付加価値商品の提供ならびに販売促進キャンペーンなど精力的な営業活動を推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて3.2%減の17,101百万円となりました。営業損益につきましては、新工場の稼働による減価償却費の増加などにより、638百万円の営業損失となりました。前年同期は282百万円の営業利益でありました。また、経常利益は、投資有価証券売却益などを計上しましたが、営業利益の減少により、前年同期と比べて78.0%減の168百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、特別利益に固定資産売却益を、特別損失に固定資産圧縮損などを計上したことにより、前年同期と比べて15.1%増の686百万円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

食品事業

当第3四半期連結累計期間におきましては、消費税の増税に伴い消費者の生活防衛意識が高まるなか、主力の菓子部門は新商品を投入して「お買い物応援キャンペーン」などの販売施策を展開しましたが、売上は若干の減収となりました。チョコレート類は、「アルファベットチョコレート」などのファミリーサイズの商品は売上を伸ばしましたが、受託商品が売上を落として減収となりました。キャンディ類は自社商品の売上が落ち込みましたが、受託商品の売上が大きく伸びて増収となりました。

粉末飲料部門は、分包アソートタイプの「スティックメイト」シリーズの売上は伸ばしましたが、天候の影響などによりココア類が苦戦して減収となりました。

主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、自社商品の売上が減少したものの、受託商品の売上が伸びて増収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースペーカーは、市場競争の激化や天候の影響などにより、主力のパウムクーヘン類やゼリー類が売上を落として減収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前年同期に比べ2.4%減の15,350百万円となりました。営業損益につきましては、減価償却費や固定資産税の増加などにより205百万円の営業損失となりました。なお、前年同期は601百万円の営業利益でありました。

化成品事業

酵素部門につきましては、脂肪分解酵素「リパーゼ」の売上は増加しましたが、一部の輸出相手国の政情・経済状況の悪化や市場競争の激化などにより、チーズ用凝乳酵素「レンネット」が売上を落として減収となりました。

また、薬品部門につきましては、「デキストラン」の誘導体は売上を伸ばしましたが、医薬品、X線フィルムなどの原料用の「デキストラン」の売上が落ち込み減収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前年同期に比べ10.5%減の1,518百万円となりました。営業損益につきましては、売上高の減少や売上原価率の上昇などにより8百万円の営業損失となりました。なお、前年同期は87百万円の営業利益でありました。

不動産事業

不動産事業につきましては、売上高は前年同期に比べ4.8%減の232百万円となり、営業利益は前年同期に比べ4.9%減の89百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ117百万円増加し、11,534百万円となりました。これは、有価証券が401百万円増加したことや、受取手形及び売掛金が392百万円増加したことや、現金及び預金が249百万円増加したこと、その他に含まれる未収消費税等が916百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,691百万円減少し、58,997百万円となりました。これは、有形固定資産が売却などにより479百万円減少したことや、保有する株式の株価の下落や売却などにより投資有価証券が1,271百万円減少したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ1,574百万円減少し、70,532百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ261百万円減少し、5,785百万円となりました。これは、固定資産撤去費用引当金が210百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ837百万円減少し、21,258百万円となりました。これは、長期借入金が626百万円減少したことや、保有する株式の株価の下落などにより繰延税金負債が172百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,099百万円減少し、27,044百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ475百万円減少し、43,487百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が802百万円減少したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

生活防衛意識や消費増税による消費の冷え込みが見られるなか、新工場の稼働に伴う減価償却費や固定資産税の増加などが利益の圧迫要因となりますが、今後も売上規模の拡大や事業活動の効率化に努め、収益力の向上に取り組んでまいります。現時点では通期の連結業績予想につきまして、2019年5月14日に公表いたしました数値を修正しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,594	2,844
受取手形及び売掛金	5,003	5,396
有価証券	0	401
商品及び製品	1,155	1,082
仕掛品	471	452
原材料及び貯蔵品	1,140	1,278
その他	1,068	129
貸倒引当金	△17	△51
流動資産合計	11,417	11,534
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,267	9,944
機械装置及び運搬具（純額）	7,991	9,260
その他（純額）	6,111	4,685
有形固定資産合計	24,370	23,890
無形固定資産	130	104
投資その他の資産		
投資有価証券	36,069	34,798
その他	148	232
貸倒引当金	△28	△28
投資その他の資産合計	36,188	35,001
固定資産合計	60,689	58,997
資産合計	72,107	70,532

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,309	2,237
1年内返済予定の長期借入金	832	835
未払法人税等	26	19
返品調整引当金	4	4
固定資産撤去費用引当金	210	-
その他	2,664	2,688
流動負債合計	6,047	5,785
固定負債		
長期借入金	12,834	12,208
繰延税金負債	5,918	5,745
役員退職慰労引当金	10	11
退職給付に係る負債	2,966	2,991
その他	366	301
固定負債合計	22,096	21,258
負債合計	28,144	27,044
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,313	1,313
資本剰余金	76	76
利益剰余金	26,569	26,917
自己株式	△706	△707
株主資本合計	27,252	27,600
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,683	15,881
退職給付に係る調整累計額	27	6
その他の包括利益累計額合計	16,710	15,887
純資産合計	43,962	43,487
負債純資産合計	72,107	70,532

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	17,660	17,101
売上原価	11,548	11,973
売上総利益	6,112	5,127
販売費及び一般管理費		
販売促進費	2,526	2,525
運送費及び保管費	1,166	1,107
給料手当及び賞与	1,105	1,105
退職給付費用	71	57
役員退職慰労引当金繰入額	1	1
貸倒引当金繰入額	17	34
減価償却費	85	91
その他	855	842
販売費及び一般管理費合計	5,829	5,766
営業利益又は営業損失(△)	282	△638
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	607	643
投資有価証券売却益	-	158
持分法による投資利益	47	52
その他	20	34
営業外収益合計	682	895
営業外費用		
支払利息	24	35
固定資産除売却損	37	40
試運転費用	119	-
その他	18	12
営業外費用合計	199	88
経常利益	765	168
特別利益		
固定資産売却益	-	1,135
特別利益合計	-	1,135
特別損失		
固定資産圧縮損	-	437
固定資産除売却損	-	2
特別損失合計	-	439
税金等調整前四半期純利益	765	864
法人税、住民税及び事業税	122	29
法人税等調整額	47	148
法人税等合計	169	178
四半期純利益	596	686
親会社株主に帰属する四半期純利益	596	686

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	596	686
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△211	△802
退職給付に係る調整額	1	△20
その他の包括利益合計	△209	△822
四半期包括利益	386	△136
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	386	△136

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	15,721	1,695	243	17,660	—	17,660
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	15,721	1,695	243	17,660	—	17,660
セグメント利益	601	87	94	783	△501	282

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	15,350	1,518	232	17,101	—	17,101
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	15,350	1,518	232	17,101	—	17,101
セグメント利益又は損失(△)	△205	△8	89	△124	△514	△638

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。